

# 県政報告

## VOL.36

令和6年2月議会

一般質問

# 西川 ひとし



奈良県議会議員（葛城市選挙区）  
会派：自由民主党・無所属の会

## 大荒れの末 修正案可決

### 聞く耳を持たぬ山下知事

2月議会は3月25日に閉会となりました。令和6年度予算は私の所属する「自由民主党・無所属の会」が、県の予算案に対して防災関連事業などの一部を見直した修正案を提出し、可決されました。なお、太陽光発電に関する条例修正案は、知事が再議（※）を求めたため廃案となりました。

2月議会は私が一般質問も行っているので、要約してお届けいたします。質問は奈良県が直面する課題について、次の4つを質問しました。「土木・建築技術職員の不足」「消防学校の移転整備」「葛城市の県社会教育センターの活用」「国道165号大和高田バイパスの整備」に関するものです。

#### ▼質問「土木・建築技術職員の不足」

奈良県内、特に過疎地域や小規模市町村で土木・建築技術職員の不足が深刻化しています。この不足が、公共工事の品質低下や防災増大といった問題を引き起こしています。状況の改善に向けた対策として、県や市町村、民間企業か

ら成る「建設技術センター」のような法人の設立を知事に提案しました。技術者が不足している市町村を支援するため、全国43の道府県に、県が関わって法人が設立されています。それを検討すらしないと知事は発言。山下知事は、人材不足の問題を認識しているものの、「新たな法人設立の必要性はない」として既存の支援策を継続し、「職員の採用強化や技術研修への参加を促進する」としました。これまでの施策が効果を発揮していないから、技術者不足を招いているということ、知事は認識されていないようで誠に残念です。即興での回答はお粗末としか言えません。どうやって具体的に技術者不足を補うかについては言及すべきところでしょう。知事には現場の深刻さを理解してもらいたいところです。



#### 主要トピック

##### メガソーラー建設関連予算を修正

##### 消防学校移転計画は棚上げへ

##### 戦後初の再議に持ち込む知事

太陽光発電の建設に一定の歯止めをかける、わが会派提案の条例案は知事が再議に付し廃案。



「提案に対して前向きに考える気があるのか」との問いに「前向きに検討する気はない」と言って腕を組む山下知事

#### ※再議とは

再議とは首長の権利で「拒否権」とも呼ばれています。自治体の長は、議会が行った条例制定や予算などに関する議決に異議がある場合、再度の審議と議決を求めることができます。再議権が行使され、議会側があらためて議決する場合、出席議員の3分の2以上の同意がなければ、当初の議決は無効となります。議決が無効となった場合、首長側は原案を再提案する必要があります。その際は過半数の賛成があれば可決されます。今回、山下知事は、条例の修正案は再議に付し、新年度予算の修正案については再議していません。どうということかという点、予算を再議にすると、3分の2の賛成を得ることが難しく、否決される可能性が高いです。予算の修正案が否決されると、知事提出の当初の予算を再度、採決することになります。そうすると、過半数の賛成をとるのが難しい、と山下知事が判断したためです。このためわが会派が提案した新年度予算の修正案が可決することとなりました。なお、奈良県議会における再議は戦後初のことです。再議は議論を尽くしたうえで行うものであり、メガソーラーを巡る住民の声、さらに私たちの意見を否定する、山下知事の議会軽視が浮彫になりました。

#### ▼質問「消防学校の移転整備」

消防学校の老朽化と敷地面積の不足により、移転整備が必要とされています。私は、移転先として旧高田東高等学校が選ばれた経緯と、地元での受け入れ体制について質問しました。山下知事は、移転先として選ばれた理由として、必要な敷地面積の確保、アクセスの良さなどを挙げ、浸水想定区域内であることへの懸念にも対策があると回答しました。それに対し他の可能性ある地域との比較や、移転先選定の過程での検討内容についてさらなる説明を求めましたが、知事は既存の選定理由を重ねて説明し、他の選択肢には触れることはありませんでした。「補正」採決によって移転についての計画策定を阻止することができました。【裏面へ】

2月議会 西川ひとし 一般質問

▼質問「葛城市の県社会教育センターの活用」

葛城市にある県社会教育センターが休館状態にあることを受け、その再活用に向けた計画を質問しました。特に宿泊施設の誘致による観光促進の可能性について質問しました。山下知事は県と葛城市が民間事業者に対して聞き取り調査を進めており、複数の企業から意見を集めている状況を説明しました。誘致に当たり、観光需要の見込みや周辺のまちづくりとの整合性が重要な要素であると指摘し、宿泊施設の建設には市街化調整区域の規制等の克服が必要であると述べました。私は県と葛城市が連携して積極的に取り組むべきであると強く申し上げました。

▼質問「国道165号大和高田バイパスの整備」

国道165号大和高田バイパスの整備進捗状況について質問しました。このバイパスの完成は、地域の交通渋滞解消や安全性向上、さらには経済活動の促進に寄与するとしています。県土マネジメント部長は、用地買収や地元自治体との協議が進んでいるものの、未整備区間の完成にはまだ時間がかかると回答しました。未整備区間の早期完成に向け、県としても国に対して協力和支援を継続していくとしました。

▼一般質問を終えての感想

今回の議論の中で、消防学校の移転整備に関して、納得できるものではありません。山下知事は、既に選定された場所の利点を強調するばかりで、政策決定過程における複数の要因の考慮と、地元住民や利用者の利便性への配慮が欠けています。奈良県が抱える諸問題に対して解決策を模索することを念頭に置いた今回の一般質問でしたが、山下知事及び関連部署は、既存の方針や対策を説明することに固執し、私の提案や疑問に対して、前向きな検討を約束することはありませんでした。山下知事の不誠実な対応を、今後も追及してまいります。

県政HOTニュース

奈良の鹿新たな管理へ

奈良県内の鹿保護と管理について、新たな対策の導入が検討されています。奈良公園の鹿を保護する「奈良の鹿愛護会」が運営する施設では、農作物被害を引き起こした鹿を「特別柵」と呼ばれる区内で収容していますが、これらのシカの管理に問題があるとの通報を受け、奈良県と奈良市による調査が行われました。調査の結果、施設の管理体制が不適切であると結論付けられました。

この問題に対処するため、県は学識経験者らから成る委員会を設け、鹿の管理方法について新たな方策を検討。3月25日に開催された委員会では、農作物被害を防ぐために特別柵で収容されている鹿の管理に関する現状が報告され、その効果が十分でないことが指摘されました。委員からは、鹿の数を減らすために駆除も含む新たな管理方法の必要性が提案され、この方針で一致しました。委員会は、来年度中に具体的な新方策をまとめる予定です。この動きは、奈良公園の鹿の保護と地域の農作物被害の防止という、双方の課題解決に向けた重要な一歩となります。

ひとしのひとりごと

〇…テレビや新聞報道でご承知の通り、奈良県2月議会は荒唐となりました。前荒井知事が進めた計画を全面的に見直したことにより、議会および関係地域住民をも巻き込み大混乱を起こしています。その原因は、一方的にメガソーラーの建設を発表した知事にあると言わざるを得ません。

〇…そんな計画を盛り込んだ新年度予算を承認する訳にもいきません。知事の独善的で横暴な態度は、北高南低の解消を標ぼうする私の政治信条とも相反します。何卒、ご理解をいただきますよう、お願いいたします。

〇…これまでの流れを整理しますと、県は、新年度当初予算案として一般会計総額5400億円余を2月定例会に提出しました。この予算案には、

地元の声無視したメガソーラー 決定プロセスに異議あり

五條市にメガソーラー施設を含む防災拠点を整備するための費用が含まれていましたが、私どもが所属する「自由民主党・無所属の会」が、これを削除し、県全体の防災体制強化のための基本構想策定費用に充てる修正案を提出しました。

〇…降ってわいたような山下知事のメガソーラー建設計画は、決定までのプロセスが不透明であること、さらに防災拠点についての議論が不十分であり、山下知事の独断的判断と言わざるを得ません。修正案は、日本維新の会の議員が退席する中、賛成多数で可決されました。

〇…五條市では、太陽光発電設置に関する条例を可決しており対決姿勢をさらに強めています。メガソーラーに関しては環境面への影響さらに、いろんな問題も表面化しています。

〇…防災拠点整備用地に設けたメガソーラーが、災害を招くことがあるやもしれません。その辺の議論も重要です。



奈良県の“北高南低”解消!

県政に関する疑問や質問は、西川ひとしにお寄せください。

〒639-2141 葛城市弁之庄58-2  
TEL:0745-69-1234 FAX:0745-69-7891